

<報道資料>

※本資料は、5月13日(米国現地時間)に発表された英語版プレスリリースの抄訳です。

2014年5月22日

サンディスク、SanDisk X300s SSD™の導入に向け エンタープライズセキュリティーソフトウェアプロバイダーの サードパーティーエコシステムの概要を発表

Absolute Software®、Check Point® Software Technologies、McAfee®、Microsoft®、
Wave® Systems、WinMagic®などのプロバイダーが、サンディスクの自己暗号化
ソリッドステートドライブの企業環境における管理をサポート

2014年5月13日(カリフォルニア州ミルピタス発) – フラッシュメモリーストレージソリューションで世界をリードするサンディスクコーポレーション(NASDAQ:SNDK)は本日、セキュリティー管理に対する独立系ソフトウェアベンダーからなるエコシステムの設立時メンバーを発表しました。この独自のエコシステムは、新たに発表されたサンディスク初となる TCG Opal 2.0 仕様に基づく自己暗号化 SSD である SanDisk X300s を企業環境に導入することを検討されるお客様に対し、容易な製品導入および管理を可能とする完全な認証済みソリューションを提供します。サンディスクは、Absolute SecureDrive™、Check Point Full Disk Encryption、Microsoft BitLocker for Encrypted Hard Drive、Wave Systems EMBASSY® Security Center、WinMagic SecureDoc™という優れた ISV パートナーのソリューションを提供できることを誇らしく思っております。

サンディスクのクライアントストレージソリューションマーケティング担当バイスプレジデントのタルン・ルーンバは、「当社の X300s SSD ISV エコシステムによって、自己暗号化ドライブをスケーラブルかつ優れたコスト効率で導入するための一元的な暗号化管理ソリューションが提供されます。これらのソリューションプロバイダーにより、管理者はデータの暗号化、ポリシーの策定、コンプライアンスのためのエンドポイント監査を行うことができます。また、サンディスクの広範な幅広いパートナーにより、SanDisk X300s SSD は中小企業から大企業までスケーラブルに対応できるソリューションとなります」と語っています。

モバイルワーカーや BYOD 環境が浸透し、セキュリティー脅威が高まる中、あらゆる規模の企業がデバイスレベルでの暗号化の採用の価値を再評価しています。InformationWeek の実施したデータ暗号化に関する調査によると、5 割近くの企業が HIPAA の規定により個人の健康データの保護を義務付けられている一方で、包括的なデータ暗号化ポリシーが整備できている企業は 38 パーセントにとどまっています¹。この調査ではさらに、データ保護を導入している企業では、いまだに脆弱性が指摘され、導入や管理により高い TCO が必要となるソフトウェア暗号化と速度の劣る HDD とが組み合わせて採用されています。

CounterTack の CTO で Informationweek の記事を執筆するマイケル A. デービス氏は、「今日の企業環境において、CIO はエンドポイントデバイスやクラウドのデータの暗号化に苦悩する一方で、社内キー管理や暗号化製品間の互換性に関する懸念も依然として持っています。自己暗号化 SSD とこれに対応する ISV ソリューションのエコシステムにより、IT 担当者たちは高い生産性を保持しつつ法的コンプライアンスを徹底し、TCO を低減させることが可能となります」と話しています。

サンディスクの広範な ISV パートナーエコシステムにより、自己暗号化 SSD のクラウドベースの管理に加え、今日のマルチプラットフォーム環境においても、より容易なデータ保護管理が可能となり、企業のさまざまな IT 要件や予算に対応する実用的な選択肢が提供されます。さらにこのエコシステムにより企業は、HIPAA、サーベンス・オクスリー、PCI-DSS その他数多くの国や地域のプライバシー関連法で保護が求められる従業員データの暗号化に関する規制基準の多くに対応することが可能です。また、X300s は業界セキュリティー標準として ISV エコシステムで幅広く採用されている TCG Opal

2.0 および [Microsoft Encrypted Hard Drive](#) に対応しているため、企業はデータ損失防止の措置を容易に展開して企業の知財の保護、コンプライアンス法への対応、全般的な TCO の削減を図ることが可能となります。

またサンディスクの新製品 X300s SSD は、今日のモバイルワーカーが求める高い性能、生産性の強化、全般的なユーザーエクスペリエンスの向上に対応し、IT 部門だけでなく従業員にとっても、最適なソリューションとなります。ハードウェアレベルでの暗号化に対応している X300s は、ソフトウェア暗号化で典型的に見られるパフォーマンスへの悪影響はなく、さらに高いセキュリティを提供します。また X300s は、従来の HDD より低遅延で高速な読み込み・書き込みが可能のため、システム応答性を体感できるほどに向上させるとともに、自己暗号化 HDD や通常の HDD より信頼性が高く、ハードドライブの故障によるダウンタイムを削減して総所有コスト(TCO)を改善することが可能です。

サンディスクの X300s SSD に関するパートナーエコシステム企業のコメント

Absolute Software—Absolute Software のプロダクトマネジメント担当ディレクターのティム・ウィリアムス(Tim Williams)氏は、「当社は、セキュリティ管理に対応する独立系ソフトウェアベンダーからなるサンディスクのエコシステムの初期メンバーに加わることができ、嬉しく思います。当社とサンディスクは、Absolute Secure Drive とサンディスクの自己暗号化ドライブ X300s の互換性を確保するべく連携してきました。このソリッドステートドライブを管理する当社の技術を活かし、ソフトウェアベースの暗号化からハードウェアベースのソリューションへの移行をサポートします」と語っています。

Check Point Software Technologies—Check Point Software Technologies の事業開発担当バイスプレジデントのaron・カントール(Alon Kantor)氏は、「モバイルワーカーの時代において、エンドユーザーの生産性を向上させ、機密性の高い企業データを保護するサンディスクの最新製品である自己暗号化ドライブ X300s をサポートできることを嬉しく思います。当社の Full Disk Encryption は X300s に完全に最適化されており、受賞歴のある当社の [Software Blade Architecture™](#) を活用し、高い拡張性を有する展開が可能な信頼性の高い実証済みのセキュリティを提供します」と述べています。

McAfee—Intel Security 部門の McAfee エンドポイントセキュリティ担当シニアバイスプレジデント兼ゼネラルマネージャーのキャンディス・ウォーリー(Candace Worley)氏は、「当社は、企業の規模に関わらず、データを保護するという点でサンディスクと目標を共有しており、サンディスクの自己暗号化ドライブ X300s SSD をサポートできることを嬉しく思います。X300s は McAfee ePolicy Orchestrator 環境に容易に統合でき、今日のモバイルパソコンやデスクトップパソコンに保存されている機密データの漏えいを防ぎます」と話しています。

Microsoft—Microsoft の基本システムセキュリティ・アイデンティティグループのパートナーグループプログラムマネージャー、ダスティン・インゴールズ(Dustin Ingalls)氏は、「各デバイスに対して蓄積データの保護を実行することは顧客にとって常に困難な課題でした。暗号化のプロセスには長い時間が必要となりうるからです。サンディスクの新製品 X300s SSD のように SED に [Encrypted Hard Drive](#) が搭載され、顧客がこのような課題に対応できるようになるのは喜ばしいことです。この技術により、BitLocker を利用する Windows 8.1 のユーザーは、何時間もかかっていたデータ暗号化コンプライアンスを数秒で実現することができます」と語っています。

TCG Opal—Trusted Computing Group の共同会長でマーケティングワークグループのリサ・ボビット(Lisa Bobbit)氏は、「SSD やその他のドライブで利用されている自己暗号化ドライブ向けに TCG で開発された標準化技術は広く採用され、企業の IT 担当者やユーザーに最高水準のセキュリティと暗号化ソリューションを提供し、ユーザーによるデータ消去、紛失、セキュリティ突破などを防ぎます。TCG 標準に基づく自己暗号化ドライブはいずれも数ミリ秒でデータを消去することができるため、安全な廃棄や再利用が可能で、データ漏えいによく見られる原因を防ぎます」と述べています。

Wave Systems—Wave の CEO、ビル・ソルムス(Bill Solms)氏は、「データセキュリティ、プライバシー、データ漏えいに関する事業リスクに対する懸念が高まり、経営レベルでの暗号化の議論が盛んになってきています。サンディスクとの密接な連携により、当社の EMBASSY Security Center およびリモート管理ツールである Wave Cloud 2014、EMBASSY Remote Administration Server が X300s で完全に検証されたことを嬉しく思います。サンディスクと当社のソリューションにより、コンプライアンスに対応するために不可欠な機能も提供しつつ、優れたパフォーマンスとセキュリティ機能を提供します」と話しています。

WinMagic—WinMagic Inc.のテクノロジーパートナーシップ担当バイスプレジデントのガリー・マクラッケン(Garry McCracken)氏は、「当社は、サンディスクと協業して、新製品 X300s SED を当社の市場有数の暗号化管理ソリューションである SecureDoc で検証、認証できたことを嬉しく思います。X300s は、当社が新たに発表した SecureDoc 互換性プログラムにおける WinMagic Certified Secure 認証を取得した初のドライブの一つです。SED は顧客にとって現在最高のデータ暗号化の選択肢であり、サンディスクがこの市場に参入したことで、この流れはさらに強化されます。SED を SecureDoc のような強力な管理技術と組み合わせることで、顧客に最高のバリュープロポジションを提供し、管理費を削減しつつ、全般的なセキュリティを向上させることが可能です」と語っています。

SanDisk X300s SSD およびサンディスクの ISV ソフトウェアプロバイダーのエコシステムについて詳しくは、<http://www.sandisk.com/x300s> をご覧ください。

■サンディスクについて

フォーチュン500ならびにS&P500カンパニーであり、データストレージソリューションで世界をリードしているサンディスクコーポレーション(NASDAQ: SNDK)は、これまで25年間にわたって斬新なアイデアと革新的な製品でエレクトロニクス業界に変革を起こしてきました。サンディスクの最先端のソリューションは、世界最大級のデータセンターの多くに採用され、スマートフォンやタブレット、そしてパソコン用の組み込みストレージとしても幅広く使われています。また、サンディスクのリテール製品は、世界中で販売されています。

サンディスク株式会社は、東京に本社を置き、大船、四日市にオフィスがあり、日本での営業・マーケティング業務拠点ならびにNANDフラッシュメモリーの開発・製造を行っています。

1 “Data Encryption: Ushering in a New Era,” by Michael A. Davis, *InformationWeek reports*, January 2012.

© 2014 SanDisk Corporation. All rights reserved.

SanDiskはサンディスクコーポレーションのトレードマークであり、米国およびその他の国々で登録されています。

本リリース内で記述されている他のブランド名は識別の目的で記されたものであり、それぞれの登録者のトレードマークである場合があります。

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ>

サンディスク株式会社 広報担当: 羽田野(はたの)
TEL: 03-4334-7102 FAX: 03-5463-2013
CP: 090-5765-9730

ブルーカレント・ジャパン株式会社 サンディスク広報担当: 岡(おか)、山崎(やまざき)
TEL: 03-6204-4141 FAX: 03-6204-4142

E-mail: SanDisk_pr@bluecurrentgroup.com